

マツノマダラカミキリの羽化パターンと体サイズ（2019年度データ）

育林・林産班 大石 毅・東江 賢次

1. はじめに

害虫の発生パターンを雌雄別に調査、記録することは防除対策を構築するうえで重要な情報のひとつである。例えばいくつかの昆虫では雌雄で羽化のパターンが大きく異なることや体サイズが二極化することが知られている。そこで今回は、マツノマダラカミキリ（以下、カミキリ）の雌雄別の羽化日や体サイズを測定、記録することにより、カミキリの羽化パターンおよび体サイズの頻度分布を明らかにし、防除の基礎資料とする。

2. 材料および試験方法

- 1) カミキリが寄生したリュウキュウマツ（以下、マツ）の採集場所と保管場所
名護市内においてフラス（カミキリ幼虫の食害により排出される糞や木屑）が観察されたマツを2019年3月に伐採・玉切した。玉切したマツは直ちに森林資源研究センターの網室（縦×横×高さ=240×335×335 cm）に静置した（図1）。
- 2) 調査期間：調査は2019年4月から7月にかけて、週日に実施した。
- 3) 調査内容：羽化した個体はすべて回収し、雌雄別に回収日、個体数を記録し、体長（頭部から尾部末端までの長さ）を測定した。

3. 結果および考察

- 1) 羽化パターンの結果を図2に示した。
雌の羽化は4月の下旬から始まり、6月初旬から下旬にかけて41~49頭/週、その後は1~11頭/週に減少し、7月中旬には終息した。
雄の羽化は4月下旬から始まり、5月下旬から6月中旬にかけて33~48頭/週を示し、その後は徐々に減少し、7月下旬には終息した。
- 2) 体サイズの結果を図3に示した。
雌の体サイズの最小値~最大値は14.3~26.6 mmであり、平均値±標準偏差は20.9±20.6 mmであった。体サイズは20.0~22.5 mmの個体が多かった。
雄の体サイズの最小値~最大値は17.0~28.0 mmであり、平均値±標準偏差は21.4±2.24 mmであった。体サイズは22.5 mmの個体が多かった。

以上の結果から、雌雄の羽化はほぼ同じ期間ではあるが、雌の羽化個体数は雄よりも早めに減少することか明らかとなった。また、雌雄とも体サイズの二極化は認められなかった。



図1 網室の外観(写真 左)と網室に静置したマツ(写真 右)

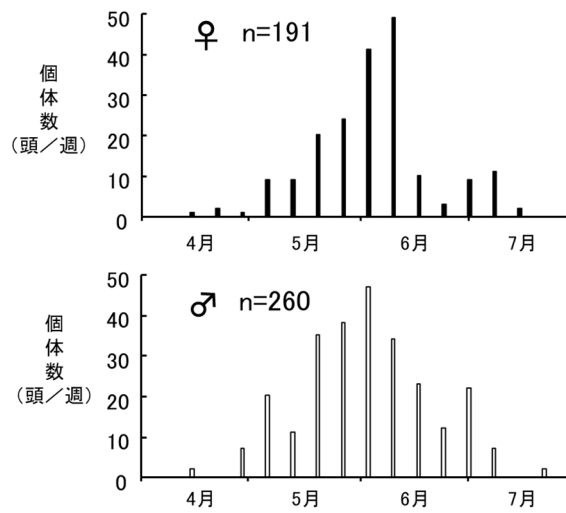


図2 雌雄の羽化パターン(2019年データ)

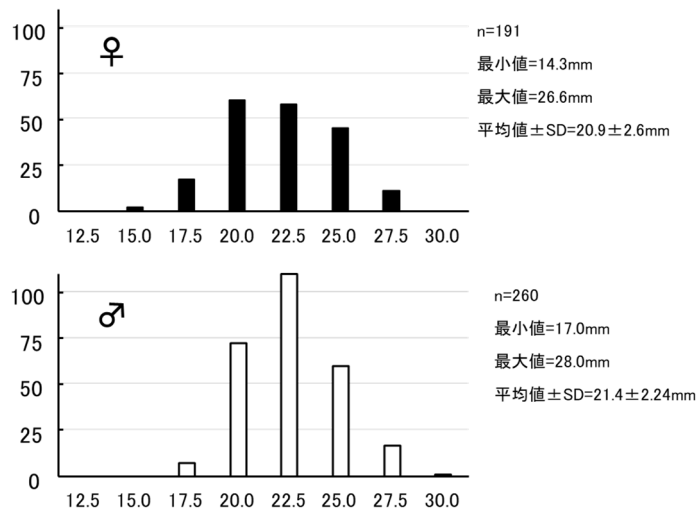


図3 雌雄の体サイズのデータ(2019年データ)